

## 第1回総合計画審議会総会会議要旨

日 時：平成 27 年 7 月 30 日(木) 9：30～10：30

場 所：伏木コミュニティセンター 3階多目的ホール

参加者：委員、参与 2 名、幹事 14 名

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

この総合計画は、平成 17 年の合併を受けて、色々な議論を踏まえて平成 19 年からスタートしたものである。この計画は合併時の様々な課題を盛り込んだものであり、現在まで計画に基づき着々と事業を進めてきた。15 年の基本構想の期間の中で 2 回の基本計画が策定されてきたが、この 10 年間で様々な時代変化があったため、新たな基本構想を含めた総合計画を策定する必要があると考えている。

3 月に念願の北陸新幹線が開業した一方、日本全体が初めて人口減少社会となる中で高岡地域経済のあり方、高岡で人々が暮らしていくことを踏まえた新しい計画を策定していきたい。

今回、各界・各層から 57 名の委員の方に参画いただき、皆様からの貴重なご意見や市民アンケートを含めた市民の皆様からの幅広い意見を集めた上で計画を策定していきたいので、ご協力をお願いしたい。また、計画策定まで長期にわたるが、慎重かつ積極的な審議を賜りたいのでよろしく申し上げる。

### 3 議長あいさつ

本市では北陸新幹線開業の効果を最大限に活かし、飛越能 86 万人の玄関口としての交通の拠点性を高めるため、ハード事業を積極的かつ集中的に進めてきた。今後はこれらの社会資本整備が本市はもちろん県西部にも活かされ、飛越能地域の皆様の利便性の向上、交流人口の拡大にむけて最大限努力していく。本市にはこれから高岡駅前、東地区の開発、急速に進む少子高齢化対策など数多く課題が山積している中で、財政は厳しい状況下にある。その中で国・県制度を積極的に活用し、市民、団体等の協働による創意工夫を凝らしたまちづくり、そして、「未来高岡」の実現を積極的に取り組んでいかななくてはならない。市議会としても市政の長期にわたる経営の根幹となる基本構想の策定に最大限の努力していく。皆様にも忌憚のないご意見を賜るようお願いしたい。

### 4 会長の選出(互選)、あいさつ

本市では念願だった北陸新幹線が開業し、国も地方創生という大きな公約を掲げている中で高岡の新しいステージが始まろうとしている。その意味では、この会議、計画はこれ

からの高岡の未来を築いていくための重要なものになっていくと考える。皆様と共に明るい楽しい高岡の未来を築いていくために努力していきたい。皆様にもご協力をお願いしたい。

## 5 諮問

～高岡市長から高岡市総合計画審議会会長へ諮問～

### 高岡市総合計画の策定について(諮問)

北陸新幹線の開業や現下の人口減少社会の到来など本市を取り巻く社会経済情勢の変化を踏まえ、市民の皆様の夢や願いを形にし、文化薫る創造力豊かな高岡を市民の皆様とともに築くため、まちづくりの指針である高岡市総合計画の策定について、高岡市附属機関に関する条例に基づき、諮問します。

## 6 議事

- (1) 副会長の選出について
- (2) 部会の設置について
- (3) 部会長の選出について
- (4) 各委員の所属部会について
- (5) 総合計画の策定について
- (6) 総合計画の策定推進体制について
- (7) 総合計画の策定スケジュールについて
- (8) 現計画の進捗状況について
- (9) 「未来高岡」総合戦略（仮称）の骨子案の構成について
- (10) 意見交換

《副会長》

今後は各部会に分かれて議論することになるが、各部会にどのような議論をしてほしいのか、今後の審議の参考のため市長から意見を聞かせてほしい。

市長

新幹線開業というのはシンボリックなことで、まさに大交流時代の幕開けである。人が動いていく中で高岡にいかにしてその流れをつかむか、また一方で、人口減少がもう一つの大きなテーマであり、地方創生が求められている。

従来のモデルは、東京が人を集め、経済を発展させ、そのことによって日本全体が成長していくというものであったが、果たして、それだけで良いのかとなっている。人口減少社会では、それぞれの地域に人が住み、子どもを産み育て、幸せに過ごすことが改

めて大切なことではないだろうか。

この高岡としては、先人たちの営みである歴史や文化をしっかりとベースにおきながら、そこからさらに文化を生み出し、それが産業に結びついてきたという高岡の成り立ちを踏まえたまちづくりを進めていくことが大切であると考えている。

文化・地域産業部会では日本遺産に認定された背景にもあるように、本市には地域経済とそこから生み出される経済力から発生してきた文化があり、この2つが循環的に発展してきたものが特徴だと考える。この高岡文化をどのように考えるか、また、文化と地域産業が互いに刺激しあうような好循環を作っていくための議論を期待している。文化では特に「創造の場」を作っていきたいと考えている。経験者、アーティスト、異文化を持つ方々とふれあい、刺激をしあいながら新しい価値観を生み出していく場が必要ではないかと考える。

交流・観光部会については大きな人口交流が生まれる一方、人口減少が課題となっている中で、交流活動の活発化による人の営みのエネルギーの確保をしていくことが大事になる。そして、人々の交わりの中で高岡のもつ文化を刺激いただき、そういったまちを多くの方々に楽しんでもらえるような観光について議論をしていただきたい。

文化・地域産業部会、交流・観光部会については、今までハード面を重視に作ってきたが、インフラ整備が一定の水準に達したと考えるので、今後はそのインフラを活用した人の営みについてご検討いただきたい。

ひとづくり部会に関しては、人口減少の中で出生率問題、子どもを産み育てやすい環境、教育などについて議論をお願いしたい。子育て世代を支えるのは福祉だけではなく、魅力ある職場、環境、居住環境など幅広いエリアであるが、ひとづくりという観点から切り込んでいただきたい。また、子育てのみではなく、これから産業の核になる人々を育て、地域のエネルギーとなる方を支えていくためのについても議論していただきたい。

安全・安心部会については、単に防災や防犯にとどまらず、将来に向けての健康などへの安心など保健、医療、福祉、あるいは地域社会のなかで支えあう共創のあり方、お互いの意見を尊重しあえる男女平等社会などが部会のテーマになると考える。また、アクティブシニア世代にこれまでの経験や知識を活かしてもらい、地域社会で活躍し、次世代に継承してもらうための議論を期待している。

#### 《ひとづくり部会長》

今回は伏木コミュニティセンターで総会が行われているが伏木といえば、ひとづくりの視点から、県下で初めて小学校を私費で設立し、インフラ整備の充実に活躍された藤井能三、大正末期に伏木の港で働く母親の子どもたちの保護のために、尼寺を借りて保育園を開いた堀田くにを思い浮かべる。

そのような先人の思いをつなげ、県西部の中核的都市として高岡にふさわしいひとづくりの中に活かしていきたい。高岡は400年前の開町より民衆の力で発展させてきたと

ころであるため、都市間競争の厳しい中ではあるが、市民の力を精一杯引き出し、そして、行政がバックアップできるような計画になれば良いと思っている。

#### 《安全・安心部会長》

安全・安心部会は人が安心して暮らしていくための基盤になる場所であると思っている。そして、その基盤を構築していかななくてはならないと考えている。

高岡のキーワードのひとつに交流があり、文化創造とは異質なものが交流する中で新たな生まれるものであるため、異質なものを取り入れてそれと向き合う、そのような文化が高岡に必要であると考え。そのために市民ひとりひとりが様々な文化を取り入れることを支えるような安全・安心のムード作りをし、まちかどで様々な会話が生まれて、それが聞こえる、そんなまちをイメージしながら進めていきたいと考えている。

#### 《交流・観光部会長》

新幹線が開業して5か月あまり経つが、今後、インフラをどのように活かしてゆくかは地域の主体性にかかっている。地域の先人の知恵や様々な国家資源をどのように地域の交流や観光につなげていくかはこの部会にかかっていると思っているので気をひきしめて頑張って議論してゆきたい。

#### 《会長》

現在、北陸財務局の行っている北陸地方の戦略プラットフォームにも参加している。その中の指標では北陸中核都市の金沢市、富山市、福井市、高岡市の中で住みやすさは高岡市がトップである。しかし、今後の人口の流れをみると、高岡は住みよさを活かしきれていない。これは、住みよさの決める指標が偏りすぎているのではないかと考える。そのため、高岡の魅力、発展のために何を指標にするかを議論する必要がある。

また、県西部地域全体を考え、将来的には高岡が西部地域の人口減の防御力となつてほしいと思っている。今後、県西部地域全体の中で高岡がどのような役割を担うかという視点も取り入れて欲しい。